

☆「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」

今回の講師は、池田市教育センター 藤原清雅 指導主事でした。前半講義では「生徒指導」における3つの指導、いじめ防止対策推進法の理解などを図りました。

「学校いじめ防止基本方針」については、折にふれて確認をしていきましょう。



☆講義から学んだこと、気づいたこと

個別指導に目がいきがちですが、集団の中で成長を促し、予防的な指導を行うことが大切だと確認しました。

生徒指導とは何か。それを考えた時に自分の頭の中には、やはり問題行動が目立つ児童の顔でした。今日教えていただいた「成長を促す指導」をすべての子どもに行えるように、視点の持ち方をもう一度考え直し、努力をしながら変えていきたいと思います。

講義の中で心に残ったのは「1人でかかえこまない」です。当たり前のことですが、学年の先生に助けをもらうことを心がけたいと思います。また、学年(学校)が1つのチームなので、他のクラスの様子も気にかけて過ごしたいと思います。

自分の言葉が子どもたちのいじめを助長させないように、気をつけなければいけないと思いました。大人から言われた言葉は、良いことも悪いことも印象に残ってしまうので、子どもたちにとって良い影響を与えられる声かけを心がけたいです。

生徒指導、いじめ防止には、組織的な対応が求められています。

「抱え込んでしまう」ことは、「解決を遅らせ、困難にする」ことにつながります。

自分はもちろん、同僚の先生方の「抱え込み」にも注意しながら、チームとしての対応、すばやい対応をお願いします。



☆事例検討から学んだこと、気づいたこと

事例検討では、自分が考えつかなかった意見もたくさん出ており、意見交流ができて良かったと思いました。

実践的に考える事例検討では、より具体的に学ぶことができた。班の方々の意見は刺激的で、このようなワークを定期的に行うことで、対応力をみがくことができると思う。

子どもが求めてきたことに対して、先生の主観で決めつけるのはとても危険だと改めて感じました。

一番大切なのは「先生は思いを理解してくれる。話してみよう」と思ってくれる人間関係やつながりを日々つくっていくことだと思いました。

教師が気づきにくいところでいじめは起こっているということ、こちらに児童や保護者が訴えてきたときには、重大なこととして受け止めること等、改めて考えさせられました。

今日の研修で、まだまだ教師としての責任感が低かったと痛感しました。子どもたちの気持ちをくみとろうとする意識が大切だなと思いました。教師自身の人間力を高めるためには、どのようなことをしていけばよいか、分からないこともたくさんある中ですが、子どもたちの成長は、自分の成長も深く関係しているのだなと改めて感じたので、自分を客観的に見つつ、一生懸命がんばりたいと思います。

最後に、藤原指導主事から「学校は、子どもたち一人ひとりの『命』と『心』を預かっている」「人間力を高める」というお話がありました。先生方にとっては、その責任の重さや教職員としての孤独を感じることも時にはあるかと思います。この初任者研修もあと少しとなりましたが、研修で培ったスキル、知り合った仲間への励ましなどが皆さんの力となればと思っています。